



第2部 公務員試験を知ろう！



第2部 公務員試験を知ろう！

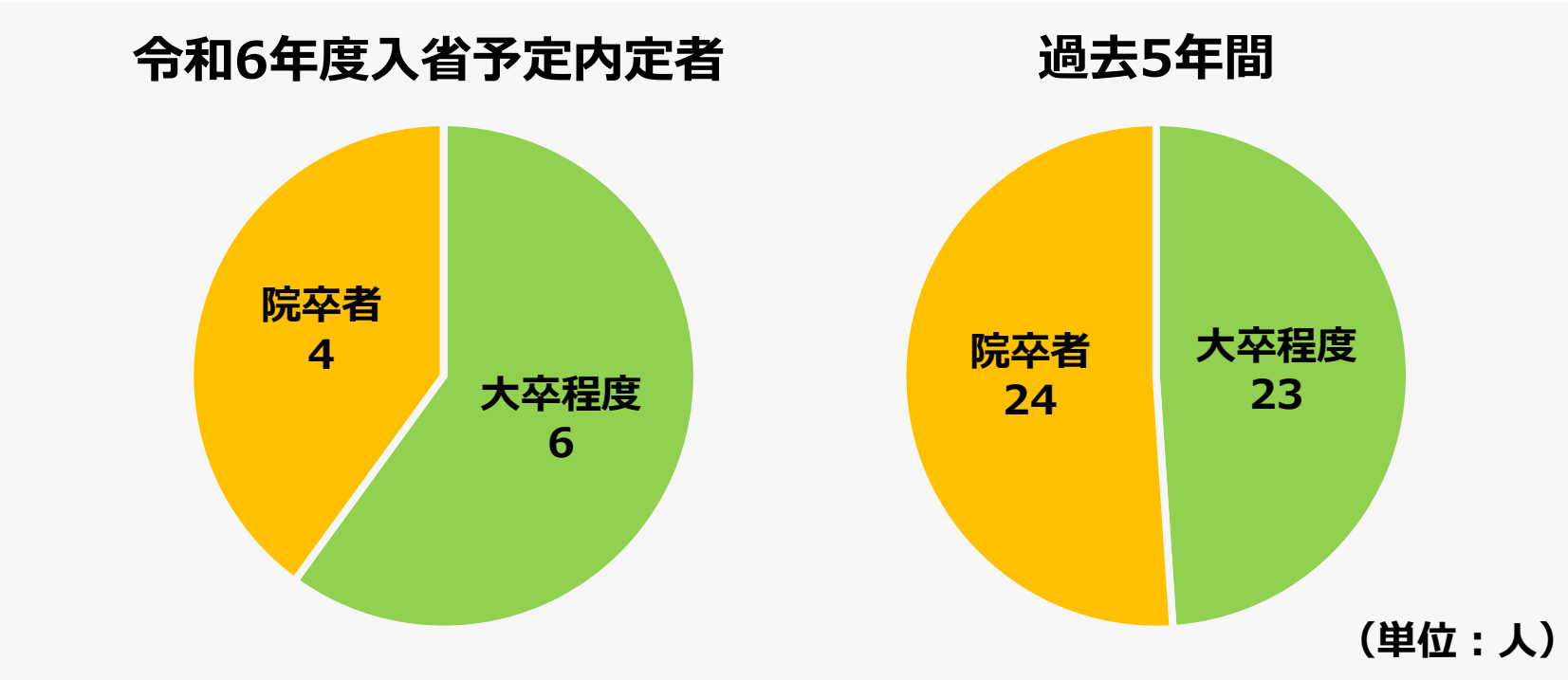
第2部では、内定者10名による国家公務員総合職試験の勉強・対策方法をお伝えします。なお、本冊子に記載している試験方法や内容は、令和6年度入省予定内定者が受けた試験について述べたものであり、次年度以降の試験とは異なる可能性があります。

また、第1部同様に内定者10人の体験談を紹介しています。勉強方法や勉強スケジュール等については、内定者個人の見解に過ぎないことをご留意ください。あくまでも、本冊子は参考としてご覧いただければ幸いです。

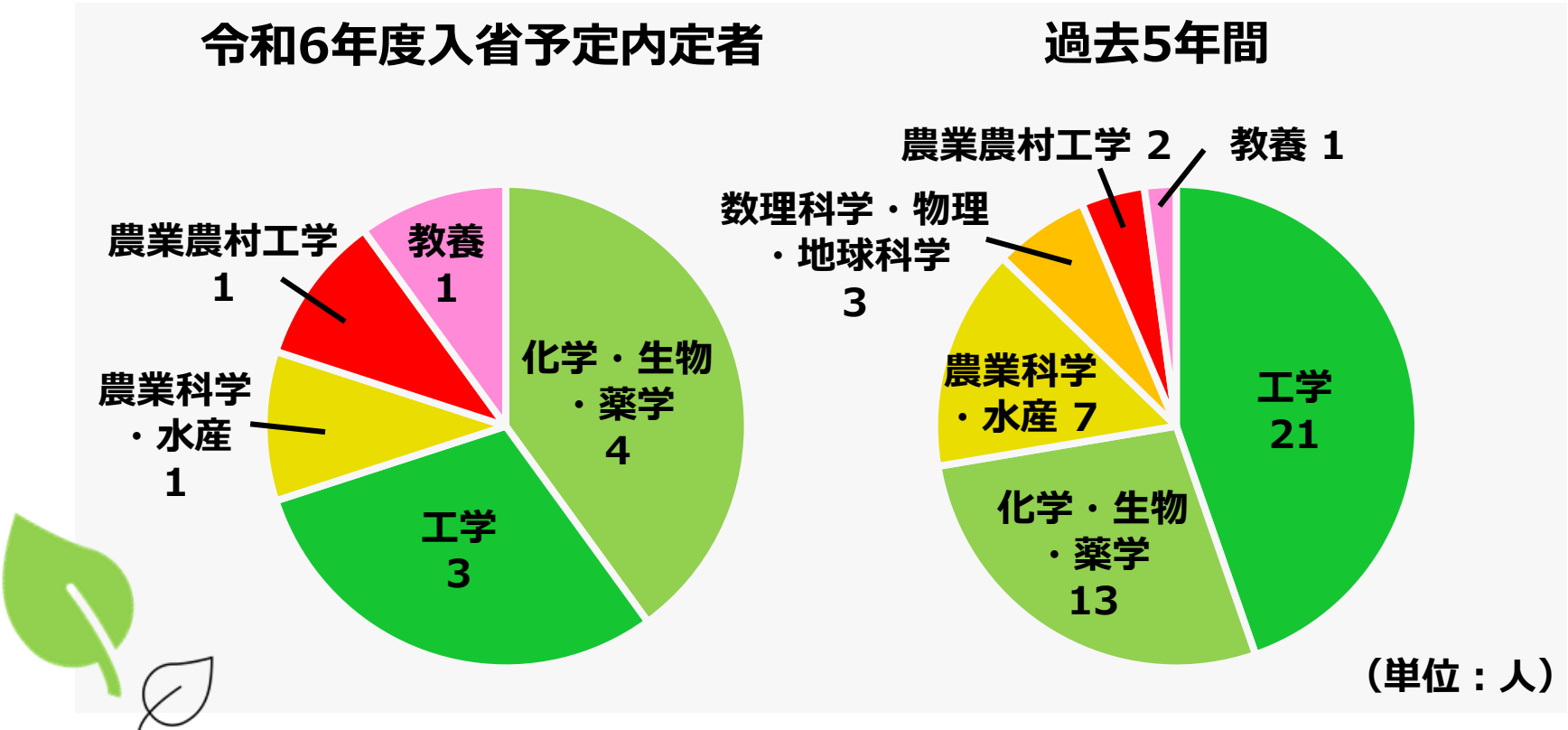


□ 内定者の基本データ

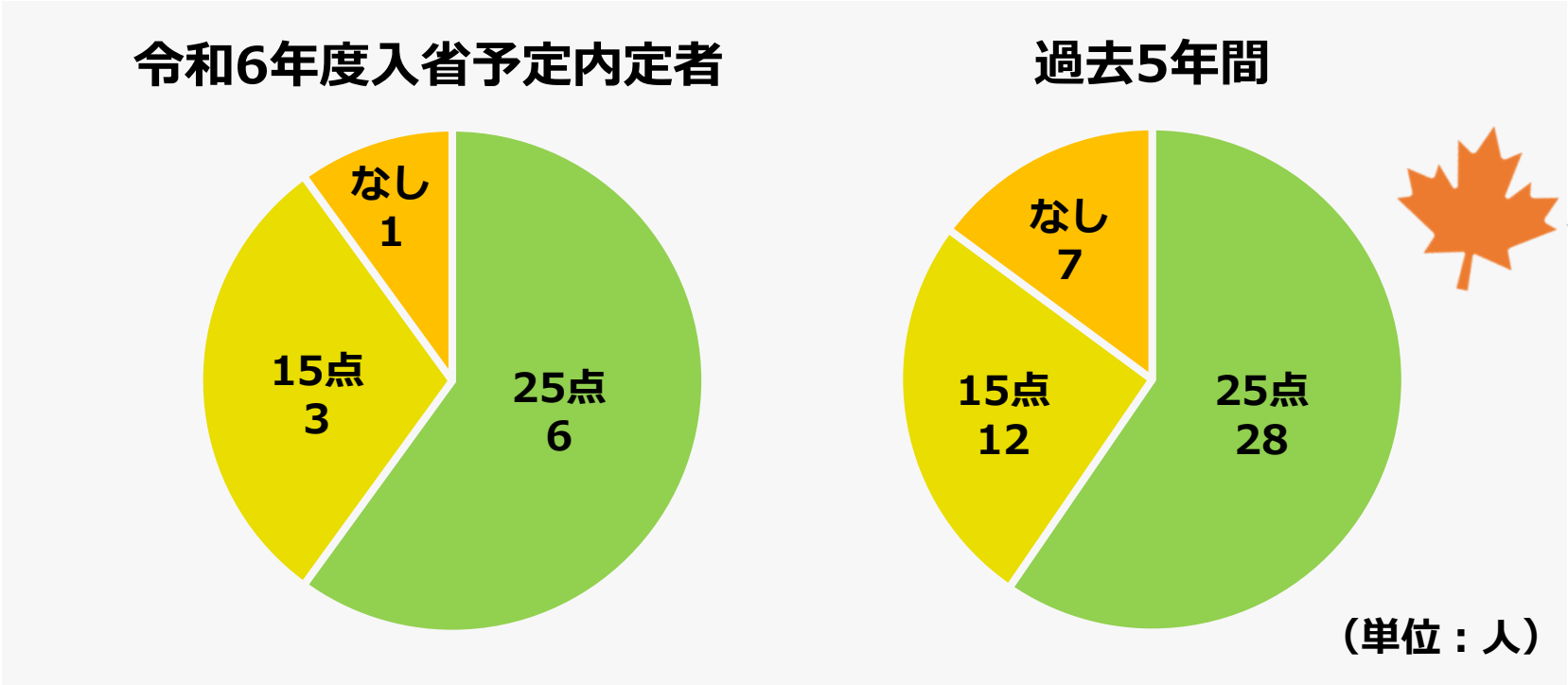
□ 試験区分



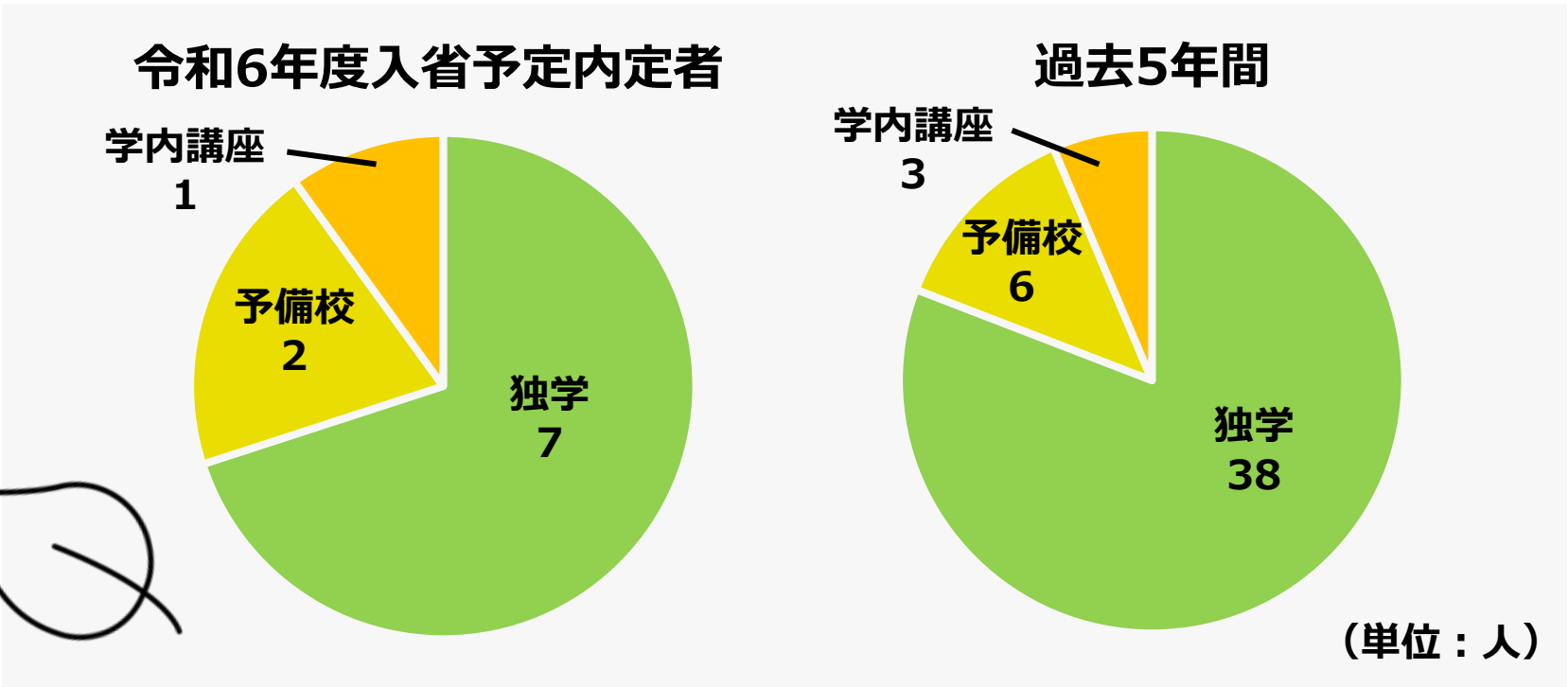
□ 試験の種類



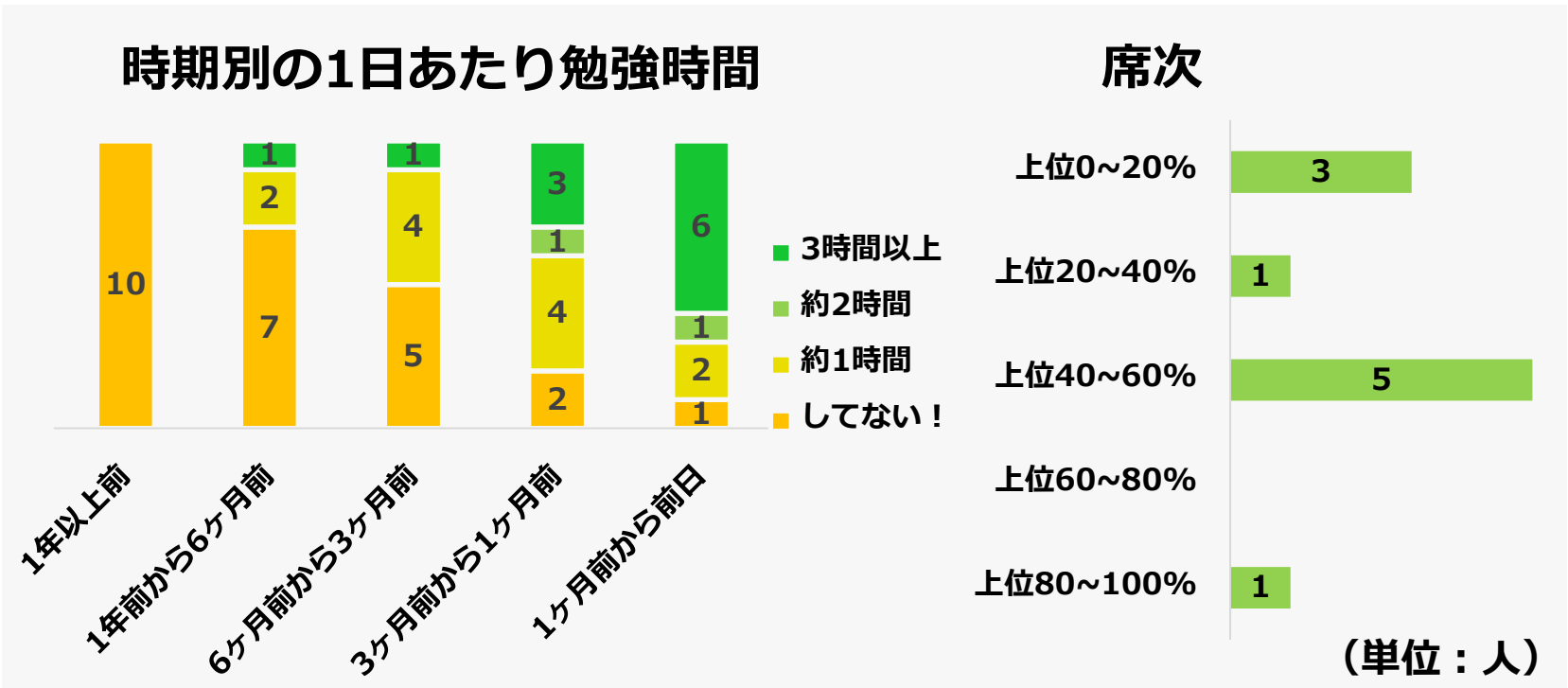
英語加点の有無



勉強方法



1次試験までの勉強時間と席次



□ 国家公務員総合職試験の概要

試験区分には、大卒程度試験と院卒者試験の2区分に加え、専門科目による区分が存在します。また、試験は大きく2つに分けられ、「1次試験（多岐選択式試験）」、「2次試験（記述式試験 + 政策試験 + 人物試験）」があります。これらの筆記試験の過去問は人事院に請求することで入手できます。

2015年度の試験から、所持しているTOEFL (iBT)、TOEIC、IELTS、英検のスコアに応じた得点が試験の総得点に加算されるようになりました。例えばTOEICなら600点以上で15点の追加、730点以上で25点の追加です。詳細は人事院のWebサイトをご確認下さい。

1次試験

基礎能力試験

いわゆるマーク式の教養試験で、配点は2/15です。問題は多岐に渡り、国語力や英語力、頭の柔らかさ、知識などが試されます。出題数は大卒40題、院卒30題でしたが、2024年度試験より大卒も30題となることが発表されています。

専門試験（多岐選択式）

選択した専門科目の知識が試されるマーク式の試験で、配点は3/15です。大卒も院卒も共通の40題ですが、試験区分により形式が異なるため確認が必要です。

2次試験

専門試験（記述式）

専門科目について記述式で回答する試験で、配点は5/15と最も高いです。基本的には複数の分野から1～2問選択して回答します。理工系においては専用の参考書などはあまりないので、大学の定期試験、院試、過去問や専門書による勉強が中心となるようです。

政策論文（大卒程度）

専門試験と同じ日に行われる試験で、配点は2/15です。出題されたテーマに対し、与えられた3つの資料を使いながら、A4裏表1枚に自分の考えをまとめていきます。配布資料は文章とグラフの両方が与えられ、英語の資料が用いられる場合もあります。

政策課題討議（院卒者）

専門試験とは別の日に行われる試験で、配点は2/15です。配布される和文・英文の資料に目を通し、自分の意見などを加えた討論用のレジュメを作成します。グループ全員にレジュメを配布し、意見発表、集団討論、もう一度発表、という手順で行います。

人事院面接

当日までに面接カードを記入して、その内容に沿って質問される個人面接です。配点は3/15です。面接時間はおよそ10～20分程度で、面接官は3人です。

官庁訪問

官庁訪問

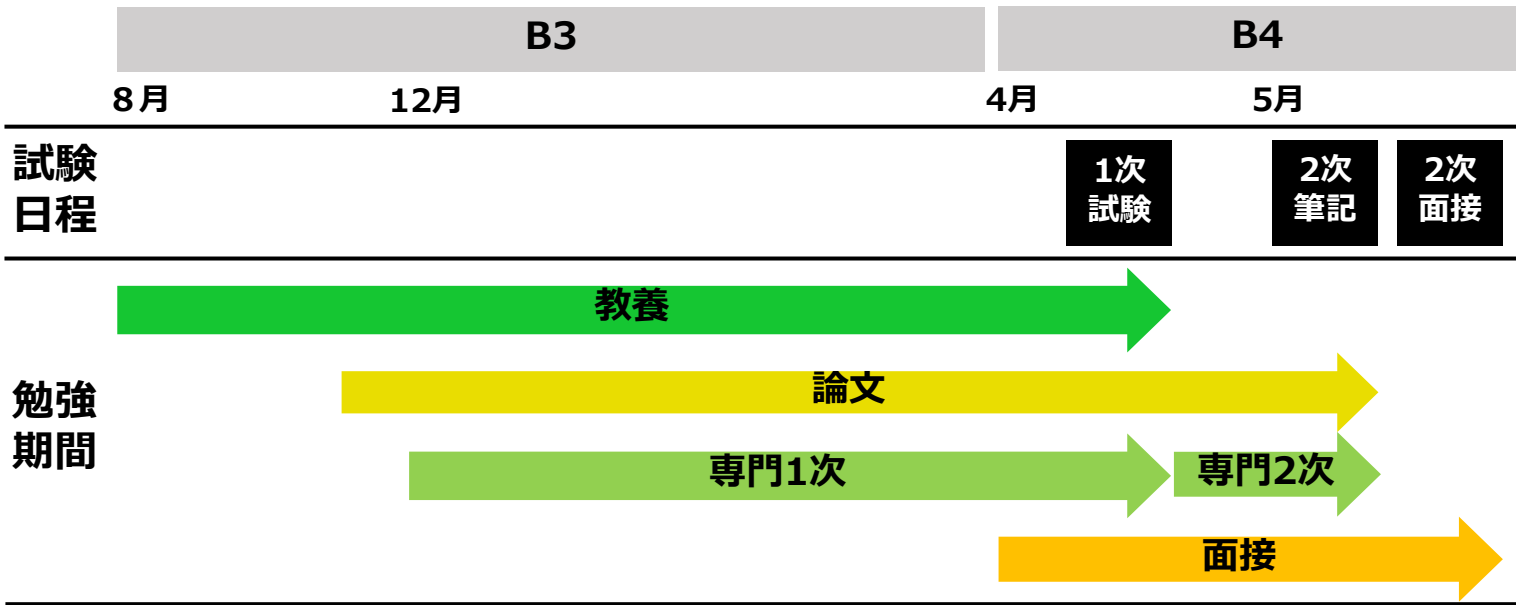
見事2次試験を突破し、最終合格した人は採用名簿に掲載され、官庁訪問を受けることが可能になります！最終合格＝採用ではなく、採用されるためには官庁訪問で各府省から個別に内定を貰う必要があります。名簿は5年間有効（2022年度までに合格された方は3年間有効）かつ、技術系区分では既合格者向けに追加で官庁訪問の機会もあるため、少しでも興味があるのなら前年度から積極的に試験を受験することをおすすめします。

官庁訪問の詳細については第3部で説明します。

No.1 鮭おにぎり

試験区分：農業科学・水産（大卒程度）
合格年度：2023年度
出身大学：神奈川県/農学部/生命科学科

勉強スケジュール



私の所属している研究室はお休みをとりやすかったため、学部3年の2月ごろから、おやすみモードに入り勉強に集中しました。専門科目の勉強開始が遅くなってしまいましたが、特に私は必ず専攻分野ではない科目を選択したため、もっと早めから始めるべきだったと思っています。

各試験の勉強量バランス



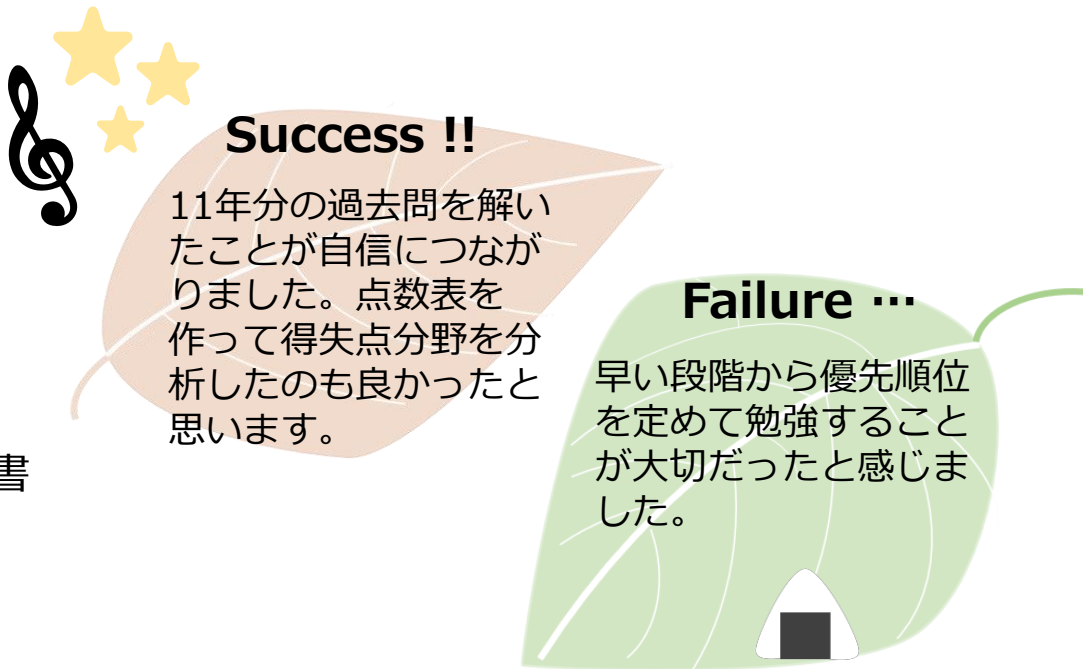
教養の勉強量のうち8割くらいは数的処理が占めており、知識問題は直前に軽く確認する程度でした。面接、特に人事院面接については、民間企業の面接対策と重なる部分が多かったです。

試験結果

席次：上位 0~20%
英語加点：あり（15点）

利用してよかったもの

- 『農学基礎シリーズ』の教科書（農山漁村文化協会）
- 過去問



□ 各試験の具体的な対策

教養

勉強量の多くを割いた数的処理のうち判断推理については、公務員試験勉強を始めた最初の時期から一次試験直前まで、毎日必ず1問以上やるようにしていたので直前には高得点を獲れるようになりました。試験が近くなった頃は、苦手な問題を克服するのではなく、得意な問題を伸ばす方針で勉強していました。文章理解は冬休みなどに短期集中型で取り組み、コツをつかむと解きやすくなってきました。直前期には時事の見直しに力を入れました。

専門1次

作物学、植物病理学、園芸学、土壌肥料学・植物病理学、食料政策・農業政策・農業関係法律

大学の専攻分野と重なる部分が少なく、大部分を一から勉強しました。①『農学基礎シリーズ』の教科書や食料農業農村白書を読み込むこと、②過去問を解いてインターネットや本で調べて得た知識をノートにまとめること、③『スーパー過去問ゼミ農学』の問題集を解くこと、の3本立てで対策しました。②の自分でまとめたノートが試験直前期にとっても役立ちました。

専門2次

作物学、植物病理学

過去問を解いてわからないところを調べながら自分なりに解答を作成するといった具合で勉強していました。自力で解けない問題が多く、非常に不安でしたが、何年分も解いてみると同じような問題を何回か見かけたりしてよく出題される分野が少しずつ見えてきました。早め早めに過去問に着手して、出題傾向を早めに見つけられると良いと思います。

政策論文

大学の学内講座を受講していたため、講座の授業に加え、そちらの先生に答案添削をしていただき、書き直しや書く時のポイントの確認をしていました。本番の試験で出題された問題は私にとって非常に難しく、英文の資料の内容もほとんど読み取れませんでした。が、「必ず3つの資料全てから引用をし、わからないなりに問いにきちんと答える」というポイントに注意して書いた結果、平均を上回ることができました。

人事院面接

面接カードに書いたことを深く話せるように話す練習を重ねました。学内講座の先生方に模擬面接をしていただいてブラッシュアップしていきました。約15分の短い面接の中で、人によって面接カード全体を広く浅く聞かれた人もいれば、特定の部分を深く聞かれた人もいたようなので、どこを深掘りされても困らないようにしておく必要があると思います。

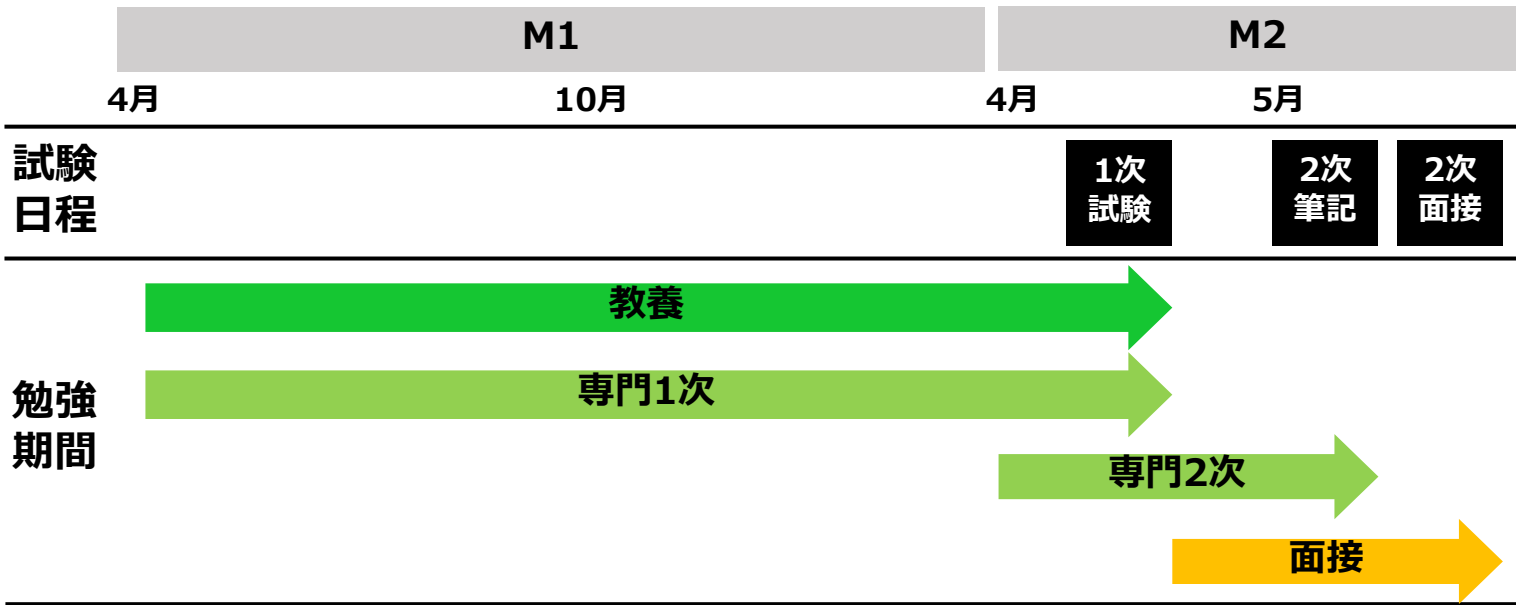
No.2 こうま

試験区分：化学・生物・薬学（院卒者）

合格年度：2023年度

出身大学：神奈川県/環境情報学府/人工環境専攻

勉強スケジュール



「国家総合職は試験内容が難しい」という漠然とした印象があり、不安から1年前から学習を始めました（今思うと早かったかも）。専門試験は、1次2次の科目が被っていたこともあり、択一の対策をメインに、記述対策にもなるように勉強していきました。

各試験の勉強量バランス



配点比率と過去問を解いた時の点数を考慮して、専門試験の勉強を中心に行いました。（教養対策のために過去問を買ったものの、ほぼできませんでした。）また民間就活を並行していたこともあり、面接対策に費やす時間が最小限で済んだかなと思います。

試験結果

席次：上位 0~20%

英語加点：あり（15点）

利用してよかったもの

- 人事院から取り寄せた過去問
- 『技術系 新スーパー過去問ゼミ（化学）』
- 大学講義のレジュメ

Success !!

情報を仕入れるためにひたすらネットで調べたこと。過去問の解説サイトや試験の傾向、合格した方の勉強方法など知ることができ、心に余裕をもって試験対策ができました。

Failure ...

専門記述の対策を始めた時期が遅れてしまったこと。対策した範囲が運よく出て、得点することができましたが、当時は焦りながら勉強していました。

□ 各試験の具体的な対策

教養

過去問を分析し、出題数の多い数的処理と文章理解の対策にほぼすべての時間を費やしました。（時事、〇〇社会系の対策は余裕があれば行おうと思いましたが、手つかずで本番を迎えました・・・）

試験本番は、とにかく時間との戦いだと思っていたので、「1問にかけていい時間」を分野ごとに細かく決め、過去問演習を行いました。

専門1次

数学・物理、基礎物理化学・基礎無機化学、物理化学・無機化学、有機化学、工業化学・化学工学

大学の講義と被る科目もありましたが、内容をほぼ忘れていたため、時間をかけて学習しました。メインは過去問・問題集演習で、特に過去問は5～10年分を解き、復習も念入りに行いました。また、わからない単語や理論はその都度ネットやYouTubeで調べノートにまとめていました。（専門書は難しくて読むのを断念しました・・・）



専門2次

物理化学、化学工学

専門1次の内容を難しくした問題、というイメージだったため、1次の対策として行っていたことがそのまま2次の対策になったな、という印象です。そのため、あまり対策に時間をかけられなかったものの、なんとか得点できました。過去問を眺めると「ほぼ毎年出ている問題」「何年かおきに出ている問題」があったので、傾向を把握したうえで、それら問題を集中的に解きまくっていました。

政策討議

対策して本番に臨む人は多くないのかなと思ったので、1週間前からネットを探索し「政策討議のコツ」を見て、本番の時間配分を確認したり、軽くイメトレを行ったりという程度でした。大学のゼミで質問したり、議論したりということが知らず知らずのうちに対策となっていた気がします。（ちなみに当日一番大変だったのはレジュメ作成でした。時間が足りず全くまとめられませんでした。）



人事院面接

面接カードの作成に力を入れました。ESの作成は民間就活を通して慣れていたものの、人事院面接の面接カードは文字数が少なく、かつ体験重視の設問が多いと感じたため、短い字数で面接官に内容が伝わるように心がけました。（本番は、研究が環境省と関連が深い内容だったこともあり、省庁の細かい志望動機まで突っ込まれて焦りました・・・）



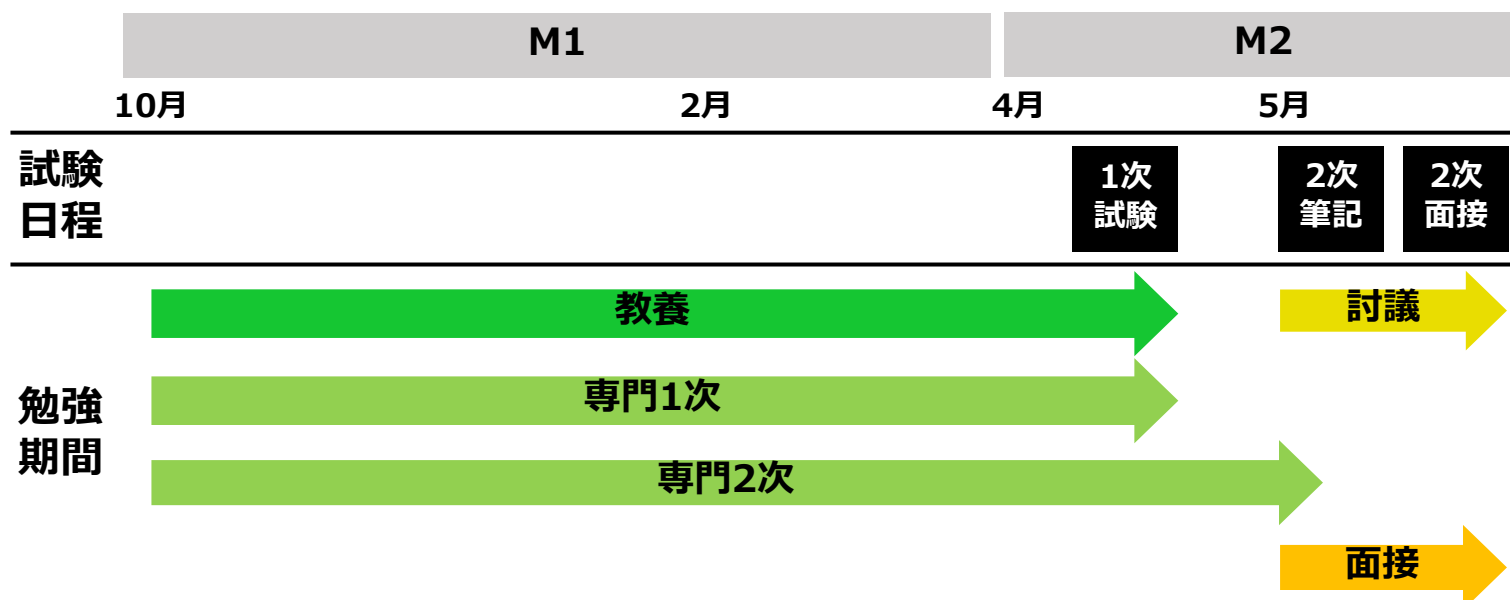
No.3 わい

試験区分：化学・生物・薬学（院卒者）

合格年度：2023年度

出身大学：東京都/物質理工学院/応用化学系

□ 勉強スケジュール



教材は通信制の塾から10月に取り寄せました。その時点で得点配分や専門2次で解く科目に合わせて、捨てる科目を決めました。春休みに入る3月から本格的に勉強を始め、2次試験を意識して解答を作りながら取り組みました。政策討論はレジュメの書き方だけ考えて臨みました。

□ 各試験の勉強量バランス

教養 20	専門 50	討議 10	面接 20
----------	----------	----------	----------

得点配分に合わせて調整しました。院卒者区分の場合、専門の比率が高いので特に力を入るとよいでしょう。また、過去問が一番実践的で、似たような問題も出題されやすいので、解説付きの問題集を用いるとよいでしょう。

□ 試験結果

席次：上位 40~60%

英語加点：あり（25点）

□ 利用してよかったもの

- ・ 塾の教材
- ・ 過去問



Success !!

2次試験を意識した勉強をしていたので、2次試験のみに向けた勉強はほとんどしなくて済みました。

Failure ...

面接の練習はほとんどできなかったもので、民間企業を何社か受けて慣れておくべきでした。



□ 各試験の具体的な対策

教養

英語と数的処理・判断推理のみ勉強しました。英語はTOIECで使った単語帳と過去問の演習とその復習をしました。数的処理・判断推理は塾の教材を使って、一通りの問題の解き方を確認し、過去問で演習を行いました。



専門1次

数学・物理、基礎物理化学・基礎無機化学、物理化学・無機化学、有機化学、工業化学・化学工学、分析化学・薬化学

2次試験でも解く科目を中心に解説付きの過去問問題集を使って勉強しました。また、勉強する際は2次試験を意識して、記述もしっかり書きました。



専門2次

物理化学，有機化学

本番では上記の科目を解きましたが、保険で化学工学も勉強しました。また、過去問研究を行い、有機化学のNMR問題など、頻出問題をピックアップして対策しました。教材はネットで解説付きの過去問問題集が有ったので、それを使いました。

政策討議

レジュメのレイアウトをあらかじめ考えておきました。また、塾が主催していた模擬討議に参加して、時間配分のイメージをつかみました。



人事院面接

ESを簡潔でわかりやすく書くように心がけ、しっかりと読み込みました。また、ゆっくりハキハキ喋るように意識して、友人や家族と面接練習をしました。

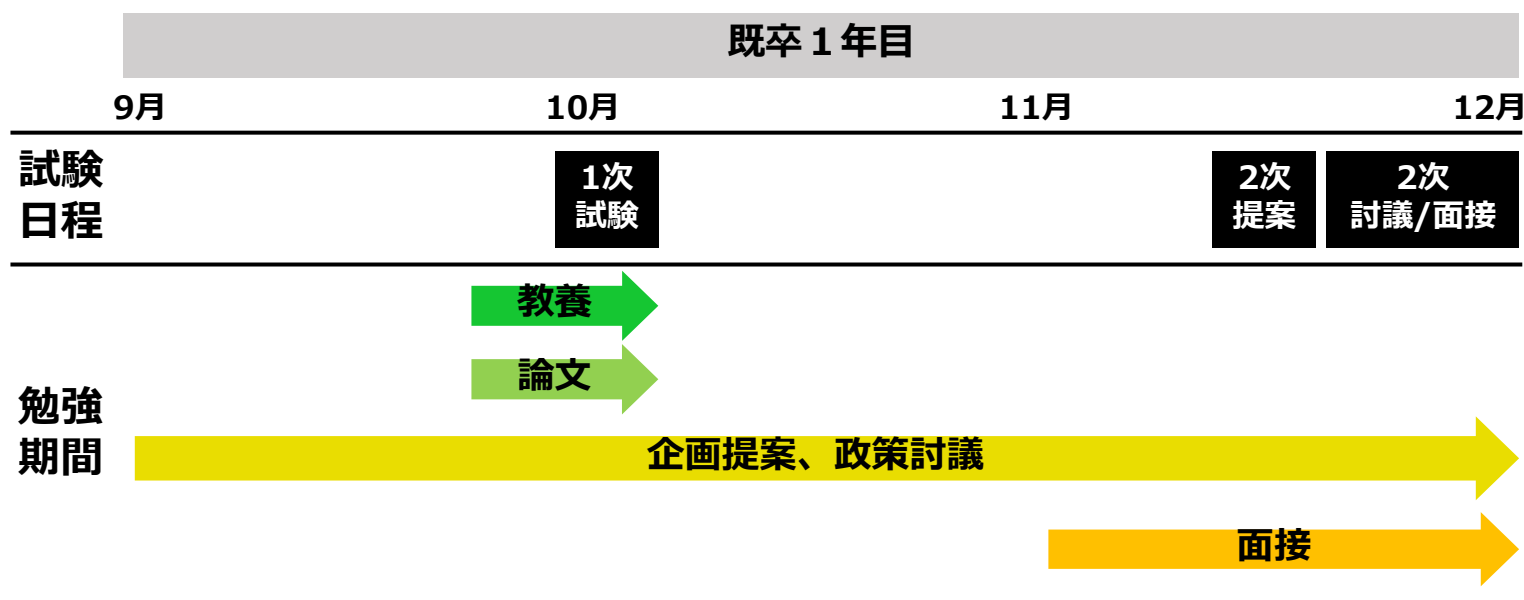
No.4 フクロウ

試験区分：教養（大卒程度）

合格粘度：2022年度

出身大学：京都府／薬学研究科／薬科学専攻

□ 勉強スケジュール



お試し受験だったので、1次試験と小論文はほとんど対策していませんでした。企画提案と政策課題討議は、各省庁のワークショップに参加して、グループディスカッションや政策提案の練習をし、試験直前はハローワークの人に相談して面接カードを作成しました。



□ 各試験の勉強量バランス

教養 5	論文 5	企画提案、政策討議 75	面接 15
---------	---------	-----------------	----------

上のコメントの通り、1次試験はほぼ対策なし（過去問 1 年分解いたのみ）で、2次試験の対策には、かなり力を入れました。

□ 試験結果

席次：上位 80～100%

英語加点：あり（25点）

□ 利用してよかったもの

- ・新卒応援ハローワーク（既卒3年以内なら利用可能）
- ・各省庁が開催するワークショップ

Success !!

政策立案の際に、政策の対象を分類して、各分類ごとに異なるアプローチを提示したのは好印象だったように思います。

Failure ...

小論文を全く対策しておらず、足切りぎりぎりの点数でした。

□ 各試験の具体的な対策

教養

事前対策は過去問 1 年分解いたのみでしたが、試験本番は、落ち着けば確実に解ける問題（統計問題、計算問題、国語の問題など）から解いて、判断推理の問題は、正解すればラッキーぐらいの気持ちで解きました（実際、時間は足りなかったのですが、判断推理の問題は勘でマークをしたものが半分くらいありました笑）

小論文

事前対策は時事ニュースを少し確認したのみでしたが、試験本番は、問われていることに対する自分の意見を、メリット・デメリットと共に端的に書きました。（ただ、点数は足切りギリギリだったため、もう少ししっかりした自分の意見の根拠を書いた方がよかったかなと思っています。）



企画提案

各省庁の政策説明会と政策立案ワークショップに参加して、政策立案方法について勉強しました。事前に公開される資料を読み込み、試験問題を予想して、自分なりの考えをある程度まとめていました。これによって、本番は落ち着いて説明することができたと思います。

政策討議

各省庁主催の政策立案ワークショップに参加して、グループディスカッションの練習をしました。相手の意見を単に否定するのではなく、「〇〇さんの意見は確かにその通りだとは思いますが、私は〇〇な点が…と思うので、～の方がよいと思います。」のように、常に相手の意見にリスペクトを持ちながら、理由も含めて自分の意見を述べるのが大事だと思います。



人事院面接

ハローワークの職員の方に、面接カードを添削していただきました。これは、社会人経験豊富な方に意見を聞くという点から、かなり有効だったと思います。面接本番では、「余計な話をせずに、聞かれた質問に対して答える」ことを意識しました。（既卒 1 年目の民間就活の経験がかなり生きたと思います。）

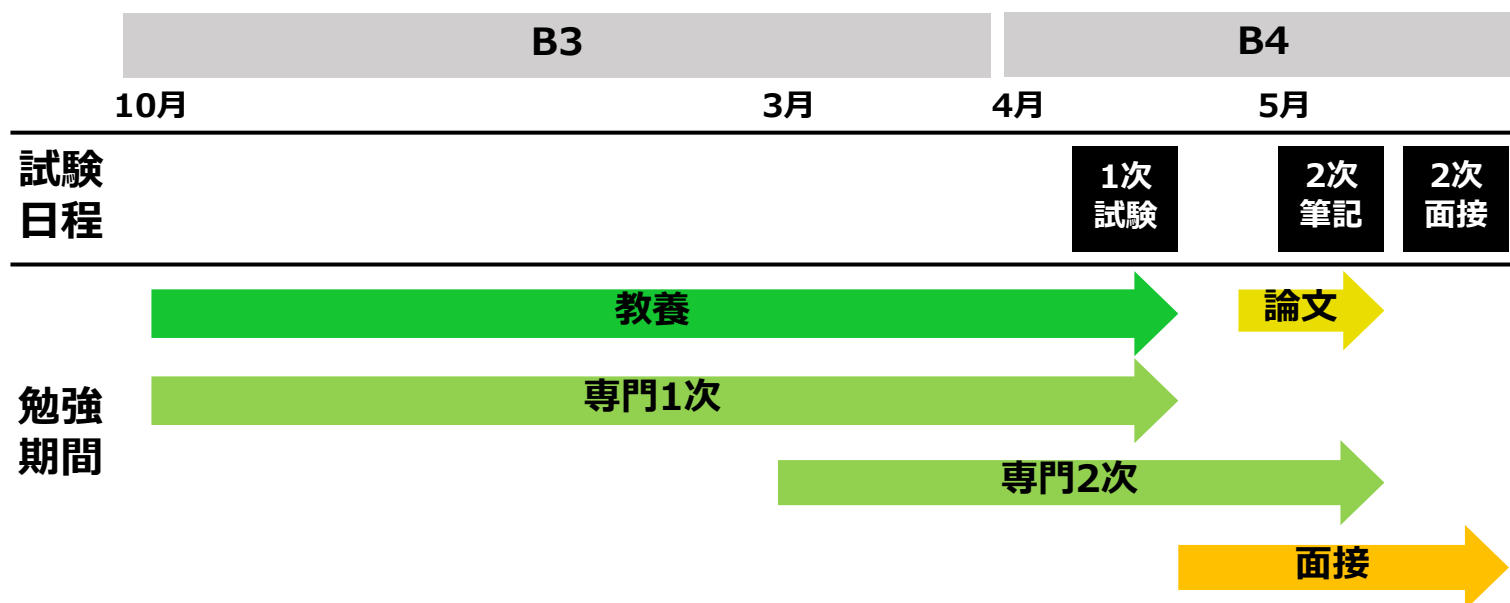
No.5 赤ずきん

試験区分：工学（大卒程度）

合格年度：2022年度

出身大学：東京都/人間文化創成科学研究科/
生活工学共同専攻

□ 勉強スケジュール



B3の夏休みに省庁のインターンに参加し、国家公務員として働くことに魅力を感じたことをきっかけに勉強を開始しました。B3の冬には修士課程へ進学する決意を固めていましたが、最終合格の有効期間が3年間あることを踏まえて勉強を続けました。余裕のある勉強スケジュールだったように思います。

□ 各試験の勉強量バランス

教養 15	専門 60	論文 5	面接 20
----------	----------	---------	----------

配点の高い専門科目に勉強時間の多くを費やしました。教養については、幅広い出題範囲の全てを網羅することはできないと考えて、出題数の多い科目に絞って対策を行いました。人事院面接は私にとって初めての面接だったので、面接カードの記入や面接練習に比較的多くの時間を割きました。

□ 試験結果

席次：上位 0~20%

英語加点：あり（25点）

□ 利用してよかったもの

- ・ 人事院から取り寄せた過去問
- ・ 『スーパー過去問ゼミ工学に関する基礎(数学・物理)』
- ・ 『基礎から学ぶ工業熱力学』

Success !!

M2での就活を見越してB4で受験したため、プレッシャーをほとんど感じることなく乗り切れました！

Failure ...

政策論文を書く練習をしておらず、本番は終了2分前まで書き終わらず焦りました。1度は書く練習をすることをオススメします。

□ 各試験の具体的な対策

教養

範囲が膨大なので全ては対策できないと考えて、出題数の多い文章理解、判断・数的推理に絞って勉強を行いました。具体的には、毎日『スーパー過去問ゼミ』を各科目2~3問ずつ解き進め、1周目で間違えた問題は重ねて解き直しました。本番では7割得点することができ、科目を絞って効率よく勉強できたと思っています。

専門1次

構造力学(土木)・土木材料・土木施工、土質力学・水理学、環境工学(土木)・衛生工学、熱力学・熱機関[機械系]、土木計画

工学の基礎は、大学受験や大学の教養科目で対応可能だったので、『スーパー過去問ゼミ』を軽く解いて思い出すように努めました。専門科目は、大学の教科書で知識をインプットしてから『スーパー過去問ゼミ』を解き進めました。最大6科目(各5題)から20題を解答する方式ということを踏まえ、5題解答する科目と2~3題のみ解答する科目に分けてメリハリをつけて対策しました。

専門2次

熱力学・熱機関[機械系]、環境工学(土木)・衛生工学

専門1次の専門科目を一通り勉強したのち、得意だと感じた2科目を使うことを決めて対策を開始しました。具体的には、人事院から取り寄せた過去問を6年分解きました。困ったのは解答がなかったことで、教科書やネットで調べたり、大学の先生とディスカッションしたりすることで解答を推測していました。本番は過去問と類似した問題が多く、上記の対策方法で良かったと感じました。

政策論文

『寺本康之の小論文バイブル』と『速攻の時事』をサラッと読んで、出題されそうなトピックを把握しました。本番では、把握したトピックが出題されましたが、自分の意見を構造的に組み立てる訓練をしておらず、書いては消しを繰り返して時間をロスしてしまいました。模試や過去問を利用して一度は書いておくと、焦らず済むかもしれません。

人事院面接

面接カードに基づいて質問されるとの情報を得て、面接カードの作成に2週間費やしました。具体的には、多くの人にコメントをもらい、読みやすくなるよう修正したり、質問したくなる点を把握して答え方を考えたりしていました。面接練習は大学のキャリアセンターを活用し『現職人事が書いた「面接試験・官庁訪問」の本』に掲載されている評価基準でフィードバックしてもらっていました。

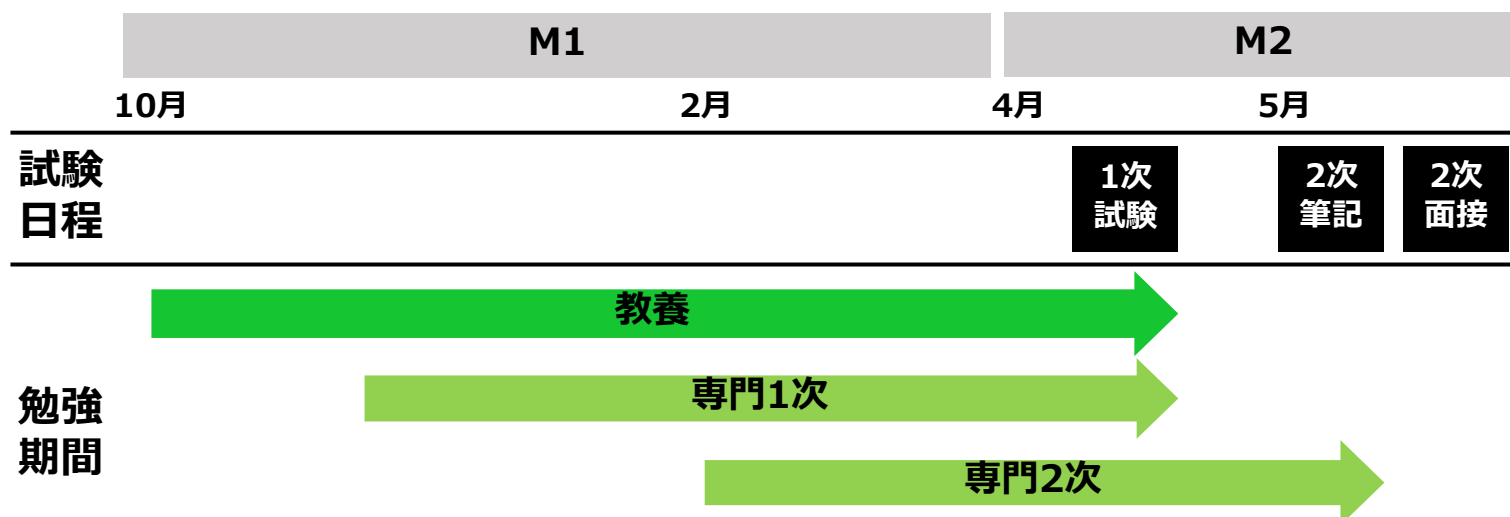
No.6 琥珀

試験区分：化学・生物・薬学（院卒者）

合格年度：2023年度

出身大学：東京都/農学府/農学専攻

□ 勉強スケジュール



教養は10月ごろから研究の合間に問題集を少しずつ解いていました。専門は分野を絞り、休日や時間のある時にまとめて勉強を進めていました。あらかじめ計画は立てていましたが研究などの都合で計画通りには進まず…専門に関しては、1次試験の直前2週間ほどで詰め込んで何とか間に合わせました。

□ 各試験の勉強量バランス



独学で勉強を進めました。M1で試しに総合職1次試験を受けたときの点数が、教養は半分、専門は3割ほどだったので、教養は少し伸ばす程度、専門は基礎からやらねばと思って勉強の配分を決めました。民間就活をしていたので、政策討議や面接の対策はほとんどしませんでした。

□ 試験結果

席次：上位 40～60%

英語加点：あり（25点）

□ 利用してよかったもの

- ・ 人事院過去問
- ・ 『スーパー過去問ゼミ（数的推理・判断推理）』
- ・ 『生態学入門』 ・ 『土壌学の基礎』



Success !!

1月に駆け込みでTOEICを受けたこと。加点が大きくて助けられました。

Failure ...

専門1次の点数が思ったより悪かったこと。2次で挽回できましたがギリギリでした…



□ 各試験の具体的な対策

教養

文章読解や英文は、普段から本や新聞や論文を読んでいたから大丈夫だと思ったので、特に対策はしませんでした。数的推理や判断推理については『スーパー過去問ゼミ(数的推理、判断推理)』の重要問題だけを1周して大体の傾向をつかみました。そのうえで苦手なパターンの問題は多めに演習しました。人文科学、自然科学、社会科学は問題数のわりに範囲が広いので捨て気味でした…



専門1次

数学・物理、食品学、土壌肥料学・環境科学・農薬、応用微生物学・生物工学、発生生物学・生理学、生態学

10月くらいから、過去問を解きつつ分からない問題は図書館で借りた専門書を読み解説をつくるという方法で勉強を進めました。過去問は10年分ほど解いたと思います。大学の専門と近い土壌肥料学と生態学を得点源にし、それ以外は学部の頃の授業で少し触れていた分野や専門外でも理解できそうな科目に絞って勉強しました。食品学や数学・物理は専門外でしたが手を付けやすかったです。

専門2次

土壌肥料学・農薬、生態学

過去問を5年分くらい解きました（本当は10年分くらい解きたかったけど時間が足りなかった）。生態学は『生態学入門』を読み込み、よく出る概念を重点的に頭に叩き込みました。土壌肥料学も同様に、よく出る分野を重点的に暗記しました。範囲が膨大なので、すべて網羅することはできず半ばあきらめ気味でしたが、今年の試験では研究分野の問題が多く出題されて救われました（本番では何が起るかわからない…）。

政策討議

政策討議の対策はほとんどしませんでした。強いて言えば試験前はニュースを意識的に見て自分の意見を考えてみるようにしました。議論の前にあるレジュメを作る時間が思ったよりも短いと感じたので、自分の意見を一枚の紙にまとめる練習をするとよいと思います。



人事院面接

民間の就活で面接をたくさん経験していたので、特に面接練習などはしませんでした。面接そのものよりも面接カードを書くことに尽力しました。面接カードは面接官にその場で読んで頂くものなので、内容を簡潔にすることや、手書きで書く場合は字を丁寧に書くことが大事だと思います。志望動機の内容は環境省を念頭において書いたもので、文章の骨組みを官庁訪問カードでも参考にすることができました。

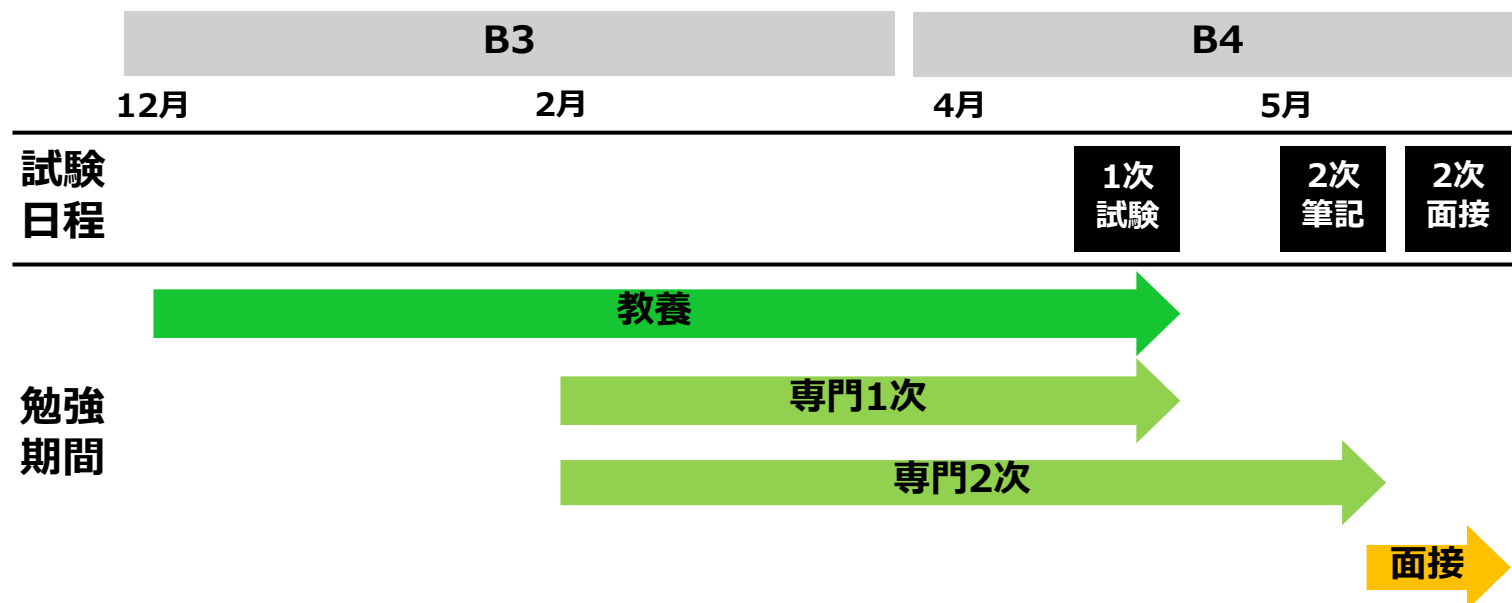
No.7 まとめ

試験区分：工学（大卒程度）

合格年度：2021年度

出身大学：千葉県/新領域創成科学研究科/
環境システム学専攻

□ 勉強スケジュール



8月に大学院入試があり、試験科目も公務員試験と重なる部分が大きかったので並行して勉強しました。3回生からコロナ禍のため授業がオンラインに移行されたため勉強時間が確保しやすかったです。

□ 各試験の勉強量バランス

教養 30	専門 60	論文 5	面接 5
----------	----------	---------	---------

教養は本屋で過去問を購入し幅広く目を通しました。専門は過去問に加え大学の講義のレジュメを読み返して対策しました。共通して言えることですが、解けなかった部分は確実に解けるように、何度も復習することに時間を使いました。

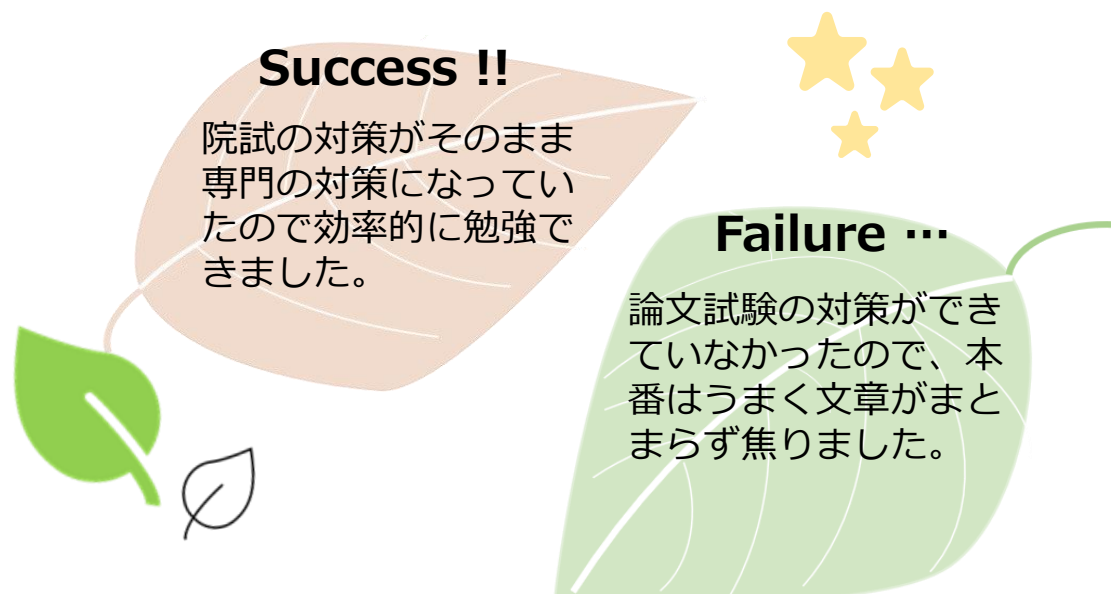
□ 試験結果

席次：上位 40~60%

英語加点：あり（25点）

□ 利用してよかったもの

- ・ 過去問
- ・ 大学講義のレジュメ



□ 各試験の具体的な対策

教養

英語の問題を解くのに時間がかかってしまっていたので、数的推理、判断推理の問題を素早く解けるように練習しました。苦手な社会で点数を落としても良いように、理数系の科目は確実に取れるように心がけました。また時事問題の対策として、普段からニュースをみて意見をまとめる練習をしました。

専門1次

環境工学（土木）・衛生工学、熱力学・熱機関〔機械系〕、流体力学〔機械系〕、原子力工学（原子核・放射線）

大学で専攻していた分野なので、授業のレジュメを見返したり期末試験の問題を見返したりしました。また過去問を解いた際、間違った問題はノートを作成して何度も復習するよう心がけました。一応保険のため土質力学・水理学についても勉強をしていました。

専門2次

環境工学（土木）・衛生工学、熱力学・熱機関〔機械系〕

問題を解く上でわからないキーワードは調べ、関連するトピックについてもできる限り目を通すようにしました。環境工学は法律や制度などについて聞かれることもあったため、過去問で見たものは覚えるようにしました。



政策論文

大卒程度を受験したので政策論文を受験しました。政策論文についてはほとんど対策ができませんでした。が、教養対策のニュースを見て意見をまとめるという勉強が少し役立ったように感じます。時間内に手書きで文章を書く練習をする必要があったと感じています。



人事院面接

就活関連で初めての面接でしたが、自分が書いたESについて深く語れるように準備していたのであまり緊張せずに話せました。学生時代に頑張ったことや国家公務員になってやりたいことなどについても聞かれましたが、面接時間の半分以上は研究についての話でした。

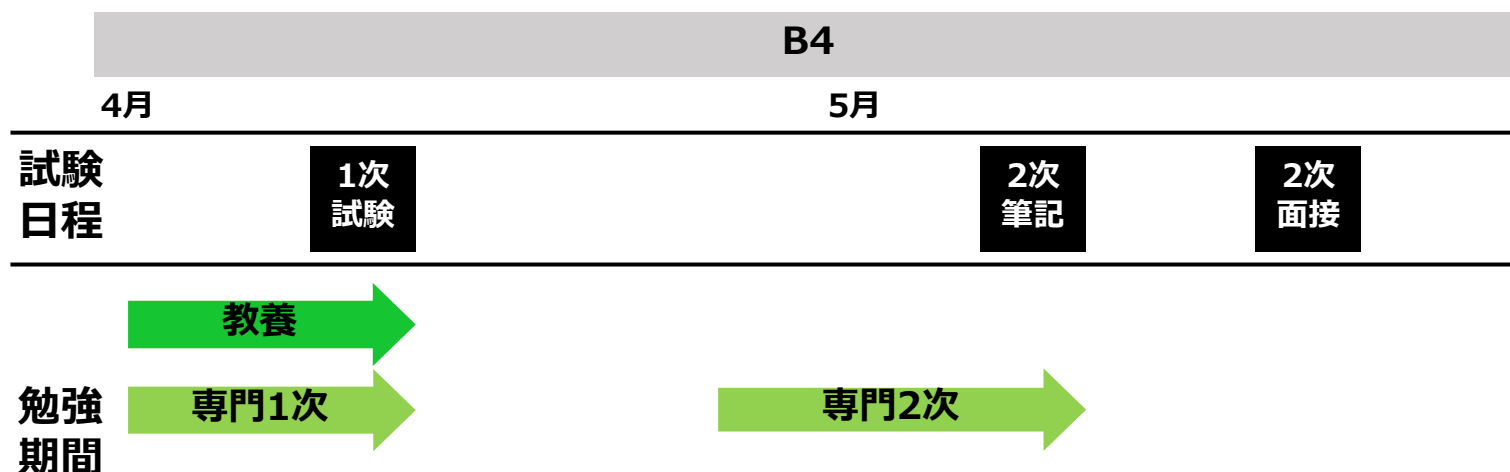
No.8 Zumi Rock

試験区分：化学・生物・薬学（大卒程度）

合格年度：2023年度

出身大学：東京都/農学部/生命化学工学専修

□ 勉強スケジュール



1次試験は1週間前くらいから勉強したと思います。日本史、世界史の問題がこのときはあったのでその辺りの勉強をしました。専門2次試験は1ヶ月くらい勉強するつもりでしたが、大学の研究を優先したため、結局ほとんど勉強していません。

□ 各試験の勉強量バランス



専門2次では、応用微生物学と有機化学を勉強しましたが、本番全くわからなかったです。留年中に勉強した免疫学の内容と、受検生物の細胞の基本的な知識で解ける他の科目を解いたので、試験に対しては勉強した意味がなかったです。

□ 試験結果

席次：上位 20~40%

英語加点：あり（25点）

□ 利用してよかったもの

特になし。

Success !!

教養は大学入試レベルであり、医学部に行きたくてほぼ毎年大学受験していたので簡単に感じました。

Failure ...

人事院からの取り寄せを面倒に思わずに、早い段階で過去問を取り寄せた方がよかったかもしれません。

□ 各試験の具体的な対策

教養

英語を素早く読めるようになるといいと思います。文章を前から読んでそのまま理解できるレベルまで英語長文を読むことと、大学入試をやや超える単語力を備えるといいかと思います。推理系の問題は、ある程度頭の中で解けるようになるいいと思います。難易度の高いものでは素早く表にまとめる必要があると感じました。国語は、全体的な文の構成、主旨を把握するようにしてください。時間が限られるので、1問あたり1分2分で解けるくらいの得意科目を複数作ってください。

専門1次

数学・物理・生化学・分子生物学・応用微生物学・生物工学・遺伝学・生態学

1次試験に専門試験があるとわかったのが、1次試験1週間前で、範囲が広すぎたので対策は諦めました。大学の講義の資料とか、院試向けの教科書を読む、過去問を請求して勉強するいいと思います。



専門2次

細胞生物学・生化学

大学の授業の記憶と、受験生物の記憶で解けました。免疫の問題と、細胞の成り立ちみたいなのが出題されてたまたま履修した授業の内容と大学受験知識で解けてラッキーでした。そこそこ、専門的な用語に関して理解を深めておくいいと思います。大学院試の指定図書とか読むことをお勧めします。僕はやってないです。応用微生物学と有機化学の勉強をしていたものの、どちらも歯が立ちませんでした。

政策論文

記憶があまりないですが、普段から政策や政治に興味があったので特段、難しくはなかったです。対策はしてないですが、普段から自分が政治に関わるとしたらどうするかとか考えているいいと思います。漢字をたくさん間違えました。漢字の間違いなどはあからさまに減点できるところなので、良くなかったと思います。

人事院面接

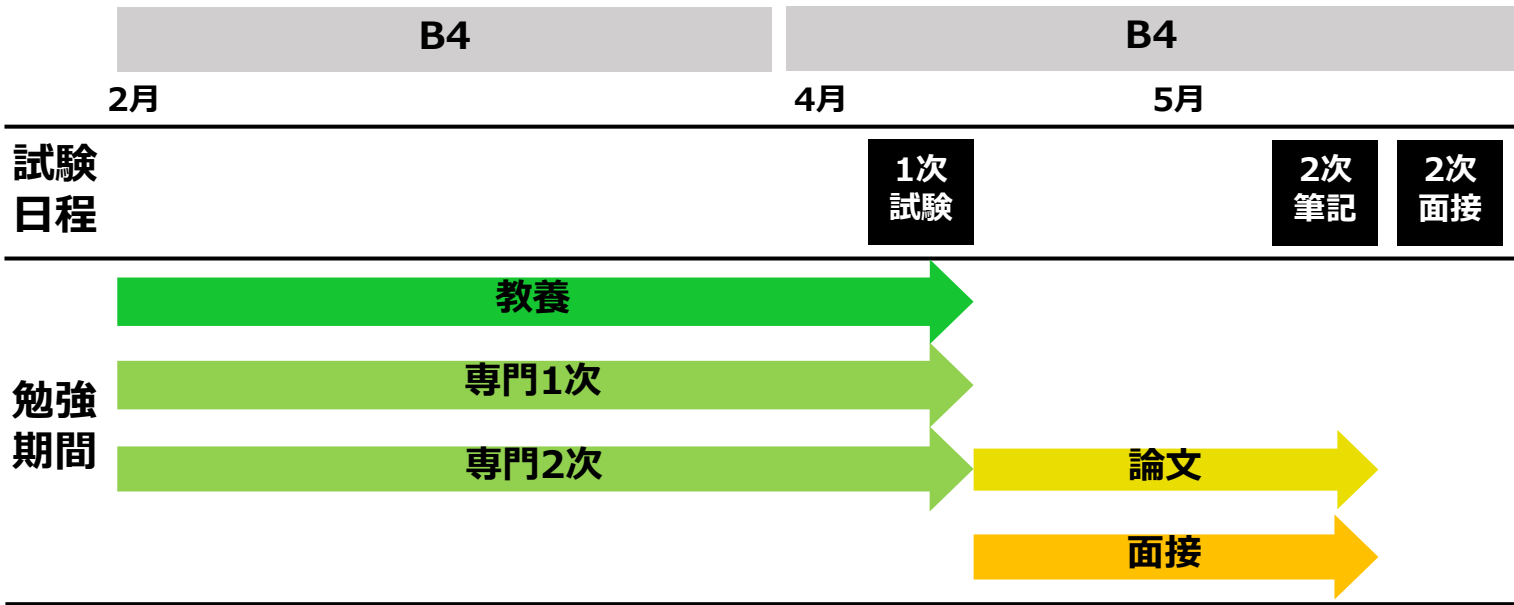
面接自体は、医学部面接で慣れており、テストの感触も悪くなかったなので、対策の必要を感じず特に何もしていません。面接が苦手そうでしたら、頑張ってテストでいい点数をとりましょう。緊張せず、しっかり会話できれば大丈夫だと思います。



No.9 リター

試験区分：農業農村工学(大卒程度)
合格年度：2023年度
出身大学：東京都/農学部/環境資源科学科

勉強スケジュール



フルタイムのアルバイトをしていたこともあり、直前までなかなか勉強時間を取れませんでした。優先的に勉強するものを選択して、人事院の過去問を中心に勉強していました。

各試験の勉強量バランス



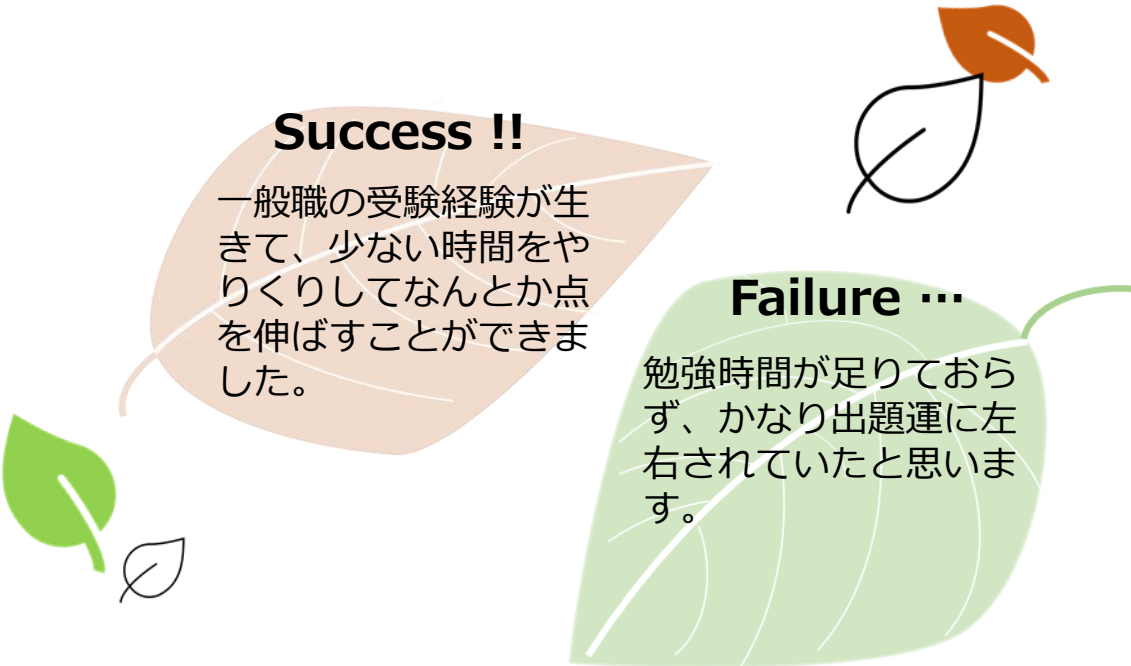
国家一般職の受験経験があったため、教養の対策は最低限で済みました。残りの時間はできる限り専門科目に集中し、政策論文は直前対策を詰め込みました。

試験結果

席次：上位 40~60%
英語加点：なし

利用してよかったもの

- 人事院の過去問
- 『農業農村工学必携』



□ 各試験の具体的な対策

教養

過去問をやると時間との勝負になることが多かったので、数的処理と文章読解どちらの方が解くのに時間がかかるかを事前に把握しておいて、時間のかかる方を後ろに回すということをテクニックとしてやっていました(英語読解が一番時間がかかっていたので最後に回しました)。

専門1次 設計・施工、農業水利学、機械基礎工学

過去問と『農業農村工学必携』を使い、解けない問題があったら逐一確認するという形式で勉強しました。書籍を見ても思うように理解が及ばない箇所があったら、大学の授業資料を確認したり、インターネットで検索したりしていました。

専門2次 農業水利学、環境調節工学

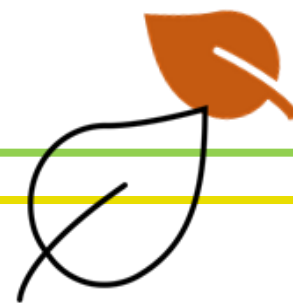
1次と同様に過去問を中心に対策しました。環境調節工学は出題傾向が少し読みづらく、過去問で見られない問題が出ることも多少想定して、範囲を広げて書籍や資料を読み込むようにしました。

政策論文

直前対策のみとなったので、インターネットで公開されていた対策記事をまず読むことから始めました。そこで時間配分のコツや構成の基本形などを確認し、それを過去問に当てはめてその通りに書けるかどうかをチェックしました。そこである程度書けることが分かったら、あとは題材に選ばれそうなものに適宜アンテナを張るようにして過ごしました。

人事院面接

対人練習することができなかったので、想定質問とその答えを作る形で対策をしました。面接カードの作成は文字数制限が厳しく、そちらの方も難しかったです。



No.10 川ジョ

試験区分：工学（院卒者）

合格年度：2023年度

出身大学：福島県/理工学研究科/理工学専攻

□ 勉強スケジュール

	M1			M2		
	11月	2月	4月	5月		
試験日程					1次試験	2次筆記 2次面接

勉強期間

専門1次

専門2次

面接

修士1年の12月から、土木三力のみ学外のオンライン講座を受講しました。12月まではその先生がYouTubeにあげていた動画をみて独学で進めていましたが、「講座開講します！」という宣伝動画がアップされて受講を決めました。

□ 各試験の勉強量バランス

教養 5	専門 90	面接 5
---------	----------	---------

教養は直前に過去問を2年分解いただけでした。その代わり専門（特に1次試験）に時間を割きました。参考書と過去問を何周も繰り返し演習しました。

□ 試験結果

席次：上位 40~60%

英語加点：あり（15点）

□ 利用してよかったもの

- ・『スーパー過去問ゼミ（工学の基礎・土木）』
- ・『米田本（土木職選択科目編）』
- ・過去問



Success !!

一般職の過去問を解いていたら、当日総合職試験に似た問題ができました。基礎固めが大事です！

Failure ...

日頃からニュースを見ていなかったのが時事問題はボロボロでした。

□ 各試験の具体的な対策

教養

時間をかければ解けそうな文章理解と資料解釈に的を絞り、時事問題で数点取る予定で試験に臨みました。数的処理は全く分からなかったので勉強することを諦めました。教養は足きりさえ回避できればよいと思っていたので全く勉強をしませんでした。結果、足きり点ギリギリで通過し、今年から増えた情報枠の1問に命救われました…

専門1次 構造力学（土木）、土質力学・水理学、環境工学（土木）、土木計画

私は高校時代、生物選択、数学が苦手科目、古文と英語が得意科目でした。物理は物理基礎で対応できるものだけ解き、数学は泣く泣く高校の参考書で勉強し直しました。専門はスーパー過去問ゼミ（土木）と過去問（一般職）をひたすら解いていました。総合職の過去問も取り寄せましたが解けなさ過ぎて諦めました。こちらも教養ほどではありませんが足きりギリギリでした。

専門2次 土質力学・土木計画（河川工学）



合格通知を受け取ってから急いで勉強を始めました。河川工学は自分の専門だったため比較的楽に取り組めました。過去問を解いていくなかで分からない単語はネットに上がっている国交省の資料を使って調べていました。土質力学も同様に過去問を解いており、わからない問題は講座の先生にメールをし、解答をもらうor説明してもらっていました。感謝…！！！！

政策討議

ネットで当日の様子だけ調べていって、あとは当日の自分にお任せ状態でした。特に練習もしていませんでしたが何とかできました。レジュメをもとに討論するので、時間が無い中でも字は丁寧に書いた方が良いです。



人事院面接

講座の先生に数回面接練習していただきました。論理的に考えることと、考えていることを話せることは別なので、話す練習はしておいた方が良いと思います。私は民間を受けていなかったため数回でも面接練習していて良かったなと思います。大切なのは笑顔です！